

たね通信

No. 27 2015年

発行 地域生活ケアセンター
小さなたね

【医療法人にのさかクリニック】

この季節は、真夏並みの暖かさになったかと思えば、ぐっと気温が下がる日もあって、着て行く服にも悩みます。季節の変わり目は、体調も崩しやすいです。心して日々を過ごして行きたいものです。

さて、小さなたねでは「計画相談」の事業所指定を得たことにより、問い合わせも少しずつですが来ています。日常の業務に重ねての取り組みになりますので、相談者の希望すべてに添えていくことは難しいのですが、出来るだけ要望に応えていけるようにしたいと思っています。

先日、病院からの退院を機会に障がい福祉サービスを利用して利用する方の依頼を受けました。退院予定は1週間後(ー)。病院の地域連携の担当者がいくつかの事業所にあたったものの断られてしまったとのこと、計画相談初心者の方の私には少々ハードルが高いと感じつつも、「どこも無いなら引き受けましょう」と返事をしていました。とにかくスピーディーに事を運ばないとなりません。

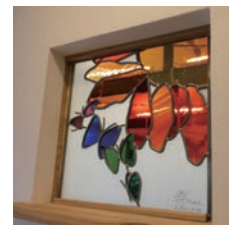
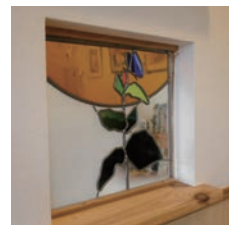
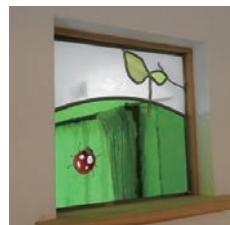


母の日、日頃の感謝を込めて

書類を整え役所窓口へ提出
……何とも慌ただしい1週間でした。
もっとじつくりと向き合いたいのになあ。でも、こ
ういう出会いがスタートであ
って、ここからかな……

ここからかな……

所長 水野 英尚



小さなたねの物語が描かれたステンドグラス (ガラスアート TAKAMI 製作・寄贈)

たねナースのつぶやき

今月は年に1回の職員健康診断でした。たねスタッフは「注射が怖い」やら、心電図の時には「体を見られるのは恥ずかしい」やら……子どものようにはいやいでいました。

そんなスタッフが、採血する私たちが看護師に向かって「本当に看護師さんだったんですね」と一言。その言葉に少々ショックを受けながら、逆に変なやる気に火が付いた、たねナースたちでした(笑)

(西嶋)



後記

バギーの息子(重心)と帰宅中、年配女性が寄ってきた。「かわいそかねー、歩けんかね? かわいそかねー」としきりに繰返し、とどめに「何でこんなにしたと!」。体が震えて言葉を返せなかった。私の動揺は、やはり責任を感じているからだ。でもなぜあんな言い方を…。たまにいてね、抱っここの赤ん坊が泣いていると、「なん泣かせようと」と言ってくる人。何気ない言い方なのか。などと数十日モヤモヤしたあと思った。傷ついた私自身が理由を探して悩む必要はない。ケーキ食べよ。 (E)

医療法人にのさかクリニック

地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814-0172 福岡市早良区梅林 6-23-3

電話 092-874-3051 FAX 092-874-3052

E-mail: chisanatane@tune.ocn.ne.jp



小さなたねのこれから

小さなたねの増改築工事が始まって1カ月が過ぎました。外部の仕上がりが見えてくると、平面では小さく感じていたのに、立ち上がり立体的となって大きく感じます。

増築部分をどう活用していくのかを、色々な人たちと懇談しています。まずは、浴室にはリフトが設置される予定です。デモ機を使用したスタッフのシミュレーションもしました。身体が大きな方でも安全に入浴出来るようになりますし、介助者の腰への負担も大幅に軽減され、労働災害も防げます。冬場でも寒くならないように大型のヒーターも設置されます。その横は、排泄時のオムツ交換が出来るように、ベッドやトイレ・洗い場となります。これまで居室のベッド上でプライバシーを守りにくかった排泄介助が、そこで可能になります。また1階部では、ウッドデッキなどオープンスペースのある「カフェ」をイメージした空間に、小さなたねの利用者と共に「スープリング」を考案して作る「スープリング」(水曜日)や、スタッフまかない食の「たね食堂」(金曜日)を、管理栄養士の小淵氏に監修してもらいながら展開していきたいと思っています。ここから、どのような広がり生まれていくのか

が楽しみです。

私の出身地の名古屋では、昔からあちこちに「喫茶店」(当時は「カフェ」などという洒落たものでありませんが)があり、自分たちのお気に入りの店を「たまり場」として過ごしたものでした。そこは、自分たちの居場所があって、仲間がいて、仕事を共有したり、時には恋愛に発展するような出会いがあったり、「喫茶店」はまさに青年期のライフステージに不可欠な場所だったのです。

そんな「たまり場」は、障がい重いからと「あきらめ」の対象ではないと思います。いや、障がい重い人たちにこそ必要です。なぜなら彼(女)たちは多くの支援が必要であって、出会いと協力と理解が求められるからです。

現在、医療や福祉サービスにおける制度が充実してきているとはいえ、在宅生活では多くの「あきらめ」が存在しています。当事者本人の願いはもちろん、家族も様々なことを「あきらめ」ながら生活しています。そこで、彼(女)たちを中心に「たまり場」を創り、そこへ人々が集い、出会い、繋がり、広がっていくけば、その生活の中での「あきらめ」を少しでも減らしていくことができるのではないのでしょうか。そういう場所が、地域での暮らしを豊かにしていくのだと思います。特別支援学校を卒業し、小さなたねを利用し

『ラストデイズ 忌野清志郎』



NHK「ラストデイズ」取材班 著
(パルコ出版、1600円+税)

2014年5月2日にNHKで放送されたドキュメンタリー『ラストデイズ 忌野清志郎 × 太田光』を書籍化。アルバム「COVERSE」(1988年)、反戦や反核を主張し販売中止となったRCサクセションのアルバムは、私もそのストレートな歌詞に衝撃を受けました。



『発達障害のいま』

杉山登志郎 著
(講談社現代新書、800円+税)

近年、「発達障害」と診断される子どもたちが増えています。学校にも異変が起きて、「特別支援学校」への入学希望が増加し、教室が不足していると言います。筆者の「障害」でなく「凸凹」として捉えること、得意／不得意として関わることで見えてくることがあります。



本の紹介



三十路の新人

才津 知尋（介護職）

4月より入職しました、才津と申します。今年の3月まで、某障がい者施設で働いていました。『たね通信』2月号、水野所長のコラム「福祉の仕事って？」の最後に登場したのは、わたしです。水野所長と出会い、見学を経て、入職を決めました。

出身は長崎県五島列島（福江島）です。「日本の快水浴場100選」「日本の夕陽100選」に入る、きれいな景色がたくさんあります。五島うどんが有名です。最近では、新垣結衣さん主演の映画『くちびるに歌を』の舞台になりました。……うっかり地元自慢になったので、話題を変えます。

入職してまもなく2カ月、気づきの連続です。はじめて現場に入ったとき、「今までの支援では、思っている以上に言葉のやりとりで頼っていたのだな」ということに気づきました。利用される方々は、わたしのことをどう思っているのかな？ 介助に不安を抱いてないかな？ 心地よい関わりってなんだろう？……そんなことを考えます。

利用者さんやご家族、他の支援者に教えてもらいながら、医療的ケアができなくても支援者としてやれることを探していきたいと思います。これからよろしくお願いします！



ている重い障がいのある方たちにとって、この場所がそんな「青春ステージ」になってくれることが私の願いです。

「青春ステージ」、少々懐かしさを感じさせる表現ですが、この言葉を最初に聞いたのは、横浜にある社会福祉法人「訪問の家」の前理事長・日浦美智恵氏の著書「朋はみんなの青春ステージ」（ふどう社、1996年初刊）からでした。重い障がいのある青年期の人たちにとって、「施設入所」が主流だった時代に、自宅から通える「通所」にこだわり、個別支援にこだわり、地域で暮らすことにこだわった支援のあり方は、全国的にもそう多くありませんでした。一人ひとりの若者たちが青春を謳歌できるようにとの日浦氏や親たちの願いが、横浜に「朋」という「たまり場」を実現させていったのです。

そして時代は変わり、先駆者たちの取組みが飛び火しながら、魅力的な取組みが次々と生み出されていきました。その一つ一つのどれも、重い障がいのある本人たちが「主役」となって、彼（女）たちの暮らしを創るため、支援者たちと共に築き上げられたものです。国や行政による「制度」もまた、それらの取組みをなぞるようにし



「鯉のぼり」のように悠々と生きたい

て作られてきました。私たちはその恩恵に大いに与かっていると云えます。今度は、私たちが次の世代の子どもたちに、続いていけるような歩みをしていかなければなりません。「あんなお兄さん、お姉さんみたいになりたい」と障がいのある子どもたちが思えるような、そんな暮らしを創ってきたいのです。

小さなたねの新たな「青春ステージ」としての「たまり場」が、今の先駆者たちの集いの場になっていければと思います。小さなたねという、各世代が交じり合う中だからこそ見えてくるものがあります。そして、自分たちの将来には「夢」の満ちた広がりがあることを確認すること、今はまだ我が子の障がいを受け止めきれず、先の見えないトンネルに閉じ込められ、漠然と不安を募らせている若い世代の親たちにとっても、「出口」は必ずあって、その先にこんなにも生き生きと暮らしている人たちがいるということを示していくことが、重い障がいをもって生きる彼（女）たちの「使命」だと私は思います。そして、それがこの社会での彼（女）たちの大切な重要な「仕事」なのだと思います。

救急救命講習会

福岡市消防局より救急救命士を迎えて講習会を行いました。「子どもの救命」に焦点を当てて、実技を交えて講習していただきました。



お知らせ

小さなたねの居宅介護事業（ヘルパー事業所）が、4月より「特定事業所加算Ⅰ」を申請・受理されています。利用者の皆さまには、その分の負担が発生しています（詳細は代理受領書をご覧ください）。これは、ヘルパー研修の開催やサービスにおける質の向上が要件となった事業所加算です。

小さなたねのヘルパーの一人一人が、自らのスキルを高め、安心と充実したサービスが提供できるよう、有効な加算として取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解の程よろしくお願いします。



増築工事が進んでいます

このたびの増改築工事より、駐車場の利用などご迷惑をおかけしています。工事業者の方たちにも、送迎時の車両の出入りには注意を払って頂くようお願いしているところですが、お車を運転していて「危ない」と感じられましたら、無理をせずに、一言スタッフにお申し出ください。

また、小さなたね向かい側の駐車場に停車して頂いた場合も、スタッフがお手伝いさせていただきますので、遠慮なさらずに声をかけて下さい。しばらく、ご不便・ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力の程よろしくお願いします。

小さなたねスタッフ一同



外観がかなり見えてきました。



内部工事も進んでいます。